

かけはし

第29号 平成9年5月30日発行
発行 千代田区教育委員会



こいのぼりに書いた私たちのめあて（番町小）

主
な
記
事

- ☆社会の変化に対応した教育環境づくり
ー平成9年度スタートー
- ☆中学生のボランティア活動
ー練成中学校の活動からー
- ☆都心型生活科にチャレンジ
- ☆総合体育館プールの個人利用時間が
変わりました

澄みわたる5月の青空の下で、全校のみなで「こいのぼり集会」を行いました。

一人一人が今年のめあてを書いてこいのぼりに貼りつけました。みんなの決意のこもった「こい」は、ずっしりと重く感じました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。



千代田区教育委員会の教育目標

（概要）

千代田区教育委員会は、来るべき二十一世紀にむけて千代田区の教育の歴史と伝統を継承・発展させ、心身ともに健康で千代田に誇りと愛着を持つ人間性豊かな区民の育成を目指します。

このため、社会の変化に対応しつつ、学校教育の充実を図るとともに、「生涯学習推進計画」に基づく区民の生涯学習活動を積極的に支援し、もって、個性豊かな文化の創造・発展と豊かな千代田区の形成に貢献することを期して、次の視点を基本として、本区の教育を推進します。

一、本区における高齢化、情報化、国際化など、社会の急激な変化に伴う区民の学習需要に対応し、家庭教育、学校教育および社会教育・社会体育を充実し、地域社会とも密接な連携を図り、区民の生涯にわたる学習意欲に応えます。

二、学校教育においては、自他の生命を尊び、心身ともに健全で、社会連帯意識を持ち、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる区民の育成を目指し、生涯学習の基礎を培います。

とりわけ、教育条件整備に引き続き努力するとともに、時代の変化に即した教育内容の一層の充実を図ります。

三、社会教育・社会体育においては、区民の生涯を通じた自己実現と生きがいのある社会生活を営むため、あらゆる機会や場を活用し、区民の多様な学習意欲を充足することのできる諸施策の推進を図ります。

また、今後とも生涯学習施設の充実を図り、より一層学習の機会や場の提供を進めます。

教育委員紹介

三月二十八日付で、教育委員会は次のような構成になりました。

教育委員会は、年々国際化・情報化などの社会変化の進む中、区民の学習意欲に対応して、生涯学習活動や教育条件整備の推進など、様々な教育施策のより一層の充実を図ります。



教育委員長
菅根 史子



教育委員長職務代理
横山 安宏



教育委員
石川 晴彦



教育委員
栗岩 英雄



教育委員（教育長）
井澤 一弘

入学・進級

四月、各幼稚園、小・中学校で入学式・入園式が行われ、今年度の教育活動がスタートしました。

子供たちは、新入生を迎えた学校・幼稚園で、気持ちも新たに、先生方や友達と楽しい時間を送っています。

教育予算

総額 一一七億二、七四九万円

三月の区議会定例会において、平成九年度予算が議決されました。このうち、教育予算における子供たちの学習に関連のある主なものを紹介します。

自然体験・移動教室・夏季施設

八、二八〇万円

小学校は嬉恋・箱根・鎌倉、中学校は軽井沢・保田で実施される、宿泊を伴う行事の経費です。

複合施設建設関係

五九億五、九九四万円

今年度中に竣工予定の千代田小・幼の新校舎や教育研究所、まちかど図書館が入る、（仮称）神田司町二丁目複合施設の建設工事などの経費です。今年度も教育条件の一層の整備と、生涯学習活動の充実を推進します。

コンピュータ教育

六、八二六万円

中学校ではこれまでに各校二十一台ずつコンピュータを導入してきましたが、最新式の機種に入れかえると共に、生徒

施設改修

四億一、二二三万円

幼稚園、小・中学校の校舎や校外施設の改修、環境整備、安全確保の徹底を図ります。

備品整備

三、九〇一万円

子供たちの学習活動を充実するための教材など、必要とされる備品を整備します。

海外交流・国際理解教育

二、四三三万円

中学校ではイギリスのウエストミンスター市立学校生徒との相互交流を、小学校では近隣の外国人学校との交流などを実施して、子供たちのための国際理解教育を一層充実します。

記念行事

一、二〇〇万円

今年度中に創立五十周年を迎える、麹町・一橋・今川・練成の各中学校の記念行事を実施するための経費です。

地域の伝統文化教育

一八〇万円

練成中学校における和太鼓演奏活動の支援をするための経費です。

教育委員会事務局の組織を改正しました

（仮称）総合文化施設の整備計画が延期となったことなどに伴い、文化施設整備担当課を廃止し、その一部を教育条件整備担当課に統合しました。また、生涯学習振興課に「コミュニティスクール主査」を設置し、昌平童夢館や（仮称）神田司町二丁目複合施設などでのコミュニティスクール活動の推進を担当します。なお、生涯学習推進主査は「生涯学習推進係」となりました。

昌平幼稚園に専任園長誕生

今年四月一日から、昌平幼稚園に専任の園長が置かれ、矢内敏江氏が就任しました。区立幼稚園の専任園長は、和泉・富士見幼稚園に次いで三人目となりました。

区立幼稚園では、地域や自然環境とのふれあいなど、創意ある教育活動を展開して、心身の健康な幼児の育成を行うとともに、小学校との連携を深めた教育を推進しています。

平成9年度 学級数・在籍者数等

平成9年5月1日現在

区分	学級数	新入生数	前年度比	在籍者数	前年度比
幼稚園	30	150	△3	409	13
小学校	93	349	△12	2,713	△264
中学校	47	488	△9	1,551	△50

中学生のボランティア活動

—練成中学校の活動から—

子供たちが心身共に成長していく中で、地域社会に目を向け、奉仕の気持ちを持ち、人の役に立つことを自ら率先して行うことは、とても大切なことです。

そこで、区内の小・中学校ではボランティア活動の大切さに目を開かせ、その意義を理解するとともに、自発的に活動ができるように指導をしています。

今回は特に練成中学校の実践事例について、教頭の伊藤 昇先生に説明していただきました。



阪神・淡路大震災やロシアのタンカー沈没事故による原油流出時には、被災地に全国的なボランティアによる支援がありました。このようにボランティア活動への関心や参加意欲は、現在では大きな高まりを見せています。

ボランティア活動の体験は、自己中心になりがちな社会観から様々な問題に目を開かせ、社会生活を築く上での基礎になるものであり、生涯学習の観点からも大事なことであると言えます。

ボランティア活動が学校教育において大切なものである理由は、単に自己満足だけを求めたり、一人の善意にとどまる活動ではないこと、進んで学び共に支え合い、共に生き抜いていく社会の一員として、地域の福祉社会づくりに自発的に参加し、社会連帯を強めていく活動であると考えているからです。

このような考えに基づき練成中学校では、学校教育を通じて実施できるボランティア活動として、生徒会が中心となつて、「地域清掃活動」、「高齢者世帯への年賀状の作成」、「年末のユニセフ募金活動」を行っています。

地域清掃活動

—みんなで街を美しく—

本校のボランティア活動としての地域清掃活動は、生徒会が中心となつて計画や準備をし、全学年の生徒によって進められています。これは、教師側が一方的に清掃活動を進めようとしても、生徒が



受け身の姿勢で活動に参加したのでは、十分な成果が期待できないからです。

地域清掃の実施は、毎月第三土曜日の放課後十一時三十分頃から始めて約一時間で終了します。毎回、全校生徒の三分の一に当たる、百名以上の生徒が参加しています。これは、各学級担任の日頃の奉仕活動に対する啓発と、生徒会が自主的に活動できるように担当教諭が支援している結果でもあると考えています。生徒会の役員が清掃区域、方法、時間、諸注意についての説明をし、美化委員が清掃用具の配布とゴミの分別を担当しています。

活動班は五〜六名で編成し、自由に班



を組めるようにしています。一方、生徒たちが自主的に取り組んでいる活動であっても、校外で多数の活動のため、安全面では細心の注意を払っています。安全確保のために、生徒会担当教諭を中心に、区域別に教師の担当を決めて、安全第一で活動に取り組んでいます。

高齢者世帯への年賀状の作成

—心のこもった

年始のご挨拶を—

今後我が国は、高齢化が急速に進展し、かつて経験したことのない高齢社会を迎えることが確実だと言われています。この中で、高齢者をいたわる気持ちを培い、

身近な社会にかかわることの大切さを学ぶことは、教育的意義として極めて大きいものがあります。生徒会では、希望者を募って地域の高齢者世帯へ年賀状を送っています。高齢者名簿と年賀はがきの提供については、千代田区社会福祉協議会に協力していただいています。核家族化が進み、高齢者との交流が少ない中でこの試みは高齢者に大変喜ばれています。

ユニセフ募金活動

—世界中の貧しい人々に救いの手を—

国際化が進む中で、世界に目を向け国際貢献への意識を高めることは、とても大切なことです。生徒会では、年間の活動計画の中にユニセフ募金を位置付けて活動しています。募金活動の期間は、十二月の一週間と限りますが、一人一人の心のこもった自主的な参加ができていると考えています。

ボランティア活動は、他から命令されたり強制されたりすることなく、自分の自由意志に基づいて自主的かつ主体的に活動に参加することが大切なことです。従って本校を卒業した後も、生徒一人一人が自発的にボランティア活動に参加していくように、在学中の三年間で奉仕する気持ちの大切さを学んでほしいと考えています。

千代田区の指定文化財 —その五—

指定番号	千有民第三号	千有民第四号
種別	千代田区有形民俗文化財	
名称	「力石群」	「力石」
所有者	柳森神社 (神田須田町 二二二十五)	築土神社 (九段北 一十四二十二)
指定日	平成元年四月一日	

「力石」とは、一定重量の大小の円形又は楕円形の石で、村の鎮守・神社の境内、会所や村境などにあって、若者たちが力試しに用いたといわれています。都市化が極度に進み、日常生活に関する地域の風俗慣習が失われつつある千代田区にあっては、江戸・東京の若者たちの生活と娯楽の一端を知る上で、貴重な資料



▲柳森神社の力石群



▲築土神社の力石

として位置付けられています。

写真左上の柳森神社の力石群は、そのような力石の中でも、大正時代以降の力石を集めたものとされています。石を持ち上げて力を競う風習は、江戸時代には大衆の間で盛んに行われたものの、関東においては明治時代中頃以降、次第に衰退していきました。しかし、大正時代になると、この風習は再び盛んになり、各派が勃興していききました。神田川徳蔵と飯田徳蔵は、当時力士の大関として、中京・関西までその力量を知られていましたが、この力石群は、この神田川徳蔵とその一派が、かつて使い慣らしたものであるといわれています。

また、写真左下の築土神社の二個の力石は、多少の損傷が見られるものの、ともに卵型に近い形の石で、残念ながらその重量は不明です。なお、碑文に「元飯田町」とあるのは現在の九段北一丁目のあたりで、江戸時代以来の呼称です。

都心型生活科にチャレンジ

生活科は、長年行われてきた小学校一・二年生の社会科と理科を統合し、児童の「こんなことをやってみたい」「みんなと楽しいことをしたい」などという思いや願いを生かしながら、体験や活動を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けていく楽しい教科です。この生活科は、平成四年度に実施されてから既に五年が経過し、教科として定着してきました。今回はその学習の様子を、お茶の水小学校の小杉則義先生に説明していただきました。

お茶の水小学校では「都市型生活科」の在り方を求めて、研究実践を続けてきました。そこで、今まで本校で行われてきた生活科の授業のいくつかを紹介し、生活科という教科の一端をご理解いただければと思います。

生き物の大好きな子供たちのリクエストによって「ザリガニつり」が行われました。学校に隣接する錦華公園の池にザリガニを放ち、これを釣り上げようとする活動です。あちらこちらから上がる二年生たちの歓声は、まさに生き生きと活動する子供の姿そのものでした。

釣り残ったザリガニを今度は幼稚園の園児たちが、待ってましたとばかりに池の中に飛び込み、手でつかみ取っていました。そのザリガニは、幼稚園と小学校で大切に育てられています。



▲ザリガニつりに歓声があがる

きをしました。ついこの間小学校に入學し、二年生に連れられて学校を案内してもらったときの緊張した顔とはうってかわって、すっかりお兄さん、お姉さん気分になりました。



▲みんなでサツマイモほり

取りで園児たちの世話をしている姿は、なんともほほえましいものでした。お茶の水小学校の生活科の特長は、併設されているお茶の水幼稚園との関連を図りながら、子供たちが生き生きと活動できる環境づくりを工夫していることです。今年度は今までよりもさらに幼稚園と小学校の連携を深めていきたいと思っています。

生活科では、地域の素材を生かしていくことが大切だといわれています。そのため本校では、神田にちなんで「そばつくり」に挑戦してみました。とはいってもプロの技術を修得しようとするのではなく、身近な食べ物であるそばを作ることを体験し、「楽しい」「おもしろい」「こうすればうまくいくかな」などといういろいろなことに気付かせ、楽しさを



▲むずかしかったそば切り

味わわせることが、この学習活動のめあてになります。

このような活動を通して、「自分たちの地域では、このようなことをずっと昔からやって来ているんだ」とか、「私たちの周りには、そばつくりをしている人がたくさんいるんだ」などと気付く子供も出てきます。そして、地域に愛着を感じ、地域の人と接することの喜びを子供たちなりに感じるができると思います。

お茶の水小学校は、都心のまさに真ん中に位置する学校です。自然環境には十分恵まれた環境とはいえませんが、この限られた環境を最大限に生かしながら、子供たちが思う存分チャレンジできる生活科を目指して、研究実践を進めていこうと思っています。

総合体育館プールの個人利用時間が変わりました

— 5月1日からスタート —



プール利用料金 (総合体育館・昌平童夢館共通) (表1)

利用区分	2時間まで	超過1時間につき
大人 [高校生以上]	400円 (260円)	200円
児童・生徒	200円 (130円)	100円

() 内は区民料金

個人利用できる時間 (総合体育館) (表2)

期 間 と 曜 日	個 人 利 用 時 間
9月~6月	火・木・土曜日 12時~20時30分
	水・金曜日 17時30分~20時30分
	日 曜 日 (第3日曜日を除く) 9時~17時
7月~8月	全日 (休館日を除く) 9時~20時30分

総合体育館の休館日は月曜日です。

個人利用時間をフリータイム制としました

これまでの二時間の入替制から、個人利用できる時間であれば自由に利用できるフリータイム制に変更しました。利用方法は、二時間利用できる利用券を購入し、二時間を超えて利用された場合は、

今年で開館二十五周年を迎えた総合体育館は、これまで多くの皆さんにご利用いただきました。特にプールについては、健康づくりや体力増強のために、ご家族やお友達同士など、幅広くご利用いただいていたところでした。教育委員会では、プールを個人利用される方の利便性の向上を図るために、五月一日から個人利用時間を変更しました。

個人利用できる時間を延長しました

は、一時間(二)に超過料金をいただくことになりました。なお、利用料金は表1の通りです。

個人利用できる時間は、表2のように変わりました。これまでは午後八時までだった利用時間を午後八時三十分まで延長し、フリータイム制と合わせて、より一層利用しやすいようにしました。

お問い合わせは総合体育館

内神田2-1-1-8
☎(3)2556(8)444

昌平童夢館プールもご利用ください

昨年九月にオープンした昌平童夢館にも、皆さんにご利用いただける温水プールがあります。

このプールは、小学校などが利用しない時間帯に、一般の方に開放しているもので、利用料金は、表1の総合体育館プールと同額です。

通常のプールの他に幼児プールを備えているため、保護者の同伴があれば、小さい子供でも安心して水遊びができるようになっています。また、ジャグジーや採暖室もあり、快適に水泳をお楽しみいただけます。

利用時間などのお問い合わせは

昌平まちかど図書館
外神田3-4-7
☎(3)2551(5)641



▲昌平童夢館プール

随想

きょういく

千鳥ヶ淵公園に子供たちの明るい歌声が響いた。スペイン語で歌うメキシコの歌「シエリト・リンド」である。ミュージックベルの澄んだ音色も加わっている。

今年は、日本から中南米への最初の組織的な移住として、三十五名の「榎本植民団」がメキシコへ移住して以来百周年を迎えた。両国で多彩な記念事業が計画され、その一環としてモニュメントがメキシコから寄贈され、この歌声は、三月に行われたモニュメント寄贈式のひとこまである。

イギリス大使館の正門から道路を隔てた向かい側の公園内に、青い鉄製の大きなモニュメントが建てられている。この作品は、現在メキシコで最も活躍している彫刻家（セバステイアン氏）が制作したもので、日本とメキシコとの親善を意味した形と言われる。そして、メキシコ大統領が来日した三月十二日に、大統領出席のもとに贈呈式が行われたのである。

「一九三〇年三月八日。

神戸港は雨である。細々とけぶる春雨である。海は灰色に霞み、街も朝から夕暮れどきのように暗い。三ノ宮駅から山の手に向かう赤土の坂道はどろどろのぬかるみである。この道を朝早くから幾台となく自動車が行きかちがって行く。」以上は、第一回芥川賞受賞作品、石川達三の「蒼氓」の書き始め部分である。

ここには、昭和初期における人口問題解決のための政府の施策、「海外雄飛の先駆者」「無限の沃土の開拓者」としてのブラ

ジル移住の様子が細かに描写されている。

勤勉で実直、忍耐強い日本の移民は中南米に数多く出掛けて行ったという。日本と中南米の国々とのかけはしとなつて懸命に異国の地で生き、そして働いた日本人の先達に、心から畏敬の念を持ちたい。

エルネスト・セディーロ メキシコ大統領は四十五歳の経済学博士である。子供が大好きだという大統領は、歓迎の両国国旗を振り、メキシコの歌を合唱する日本の

大統領と子供たち

千代田区立
九段小学校長
同 幼稚園長

堀内 虎 満



子供たちを見て、どんな感想を持たれたであらうか。子供たちは、大統領と握手をしたり、声をかけていただいたりして、感激もひとしおだったようである。

シエリト・リンド（かわいい人）

〈デラシエーラモレーナ シエリト・リ

ンド ビエネン バハンド

アン パルデ オーヒトス ネグロス

シエリト・リンド：アイ アイ アイ

アイ カンタイノジョレス…

二番まで続くこの歌を、三・四年生は懸命に練習した。感心なことにわずかな期間の練習であつたが、子供たちの柔軟な頭脳は完全に覚えてしまったのである。楽しそ

うであつた。

数日後、メキシコ大使館の文化担当公使が区の担当者と共に学校を訪れた。

そして、大統領は子供たちの合唱をとて喜ばれたと伝えてくれた。遠い日本の地で自国、メキシコの子供たちに想いを馳せながら、日本の子供の元気な歌声を聞かれたからであらう。

公使からお礼に、メキシコの可愛い陶製の人形を全員がいただいた。ウサギ、キリン、牛、馬、カンガル、蛙などの動物が、みな楽器を持ってポーズをとっている楽しい置物である。見ているだけで笑みがこぼれるような表情をしている。

子供たちは、歓迎式に使った記念のメキシコ国旗とこの人形を、いつまでも思い出として大切にしよう。百年前に日本からメキシコに移住した人々の汗と涙の努力が、メキシコで実り、今日の日墨両国の親善と交流に大きな成果をもたらしていることは確かである。

メキシコ大統領の前で、メキシコの歌を一生懸命に合唱した日本の子供たちの素直な瞳も、両国の大切なかけはしのひとつになったのではないかと思っている。

ほりうち とらみつ

区立小学校長会長

区立幼稚園長会長

編集後記

ついこの間、新しい年度が始まったばかりと思っていきましたら、もう一学期も半ばを過ぎてしまいました。

間もなくうつつというしい梅雨に入りますが、この時期は食中毒の季節でもあります。特に心配なのは大腸菌O-157の流行です。今年はすでに寒い冬の頃から流行の兆しを見せ、全国的に広がる予想が報じられています。本区としても昨年度に引き続き、予防措置に万全を期したいと考えています。

本号では中学生のボランティア活動を取り上げましたが、特定の学校の子供だけにとどまらず、これからは、子供一人一人の意思に基づいた積極的なボランティア活動への広がりを期待したいものです。

また、昨年度に引き続き、ウエストミンスター市立学校から十名の生徒が来日しました。日本での様々な活動の様子を次号で紹介したいと思っています。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第二十九号

平成9年5月30日発行

編集発行／千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11

☎(32694)0151 内3114

きょういく

随想